

# はじめに

- 1章 天災と人災のあいだの失敗——事故はなぜならないか .....  
はじめに 1

## 一 科学技術は善か悪か

7

## 二 一九世紀の爆発事故——「知の失敗」とは何だろうか

19

## 三 二〇世紀の墜落事故——「知の失敗」を産出し続けるシステム

28

## 四 リスク論批判

43

## むすび

54

# 2章 科学技術政策のジレンマ

## はじめに

59

## 一 知の隙間をどうみるか

63

## 二 科学技術政策をつくつてゐる言説 72

72

### 三 議論は巡る——科学技術決定論と社会決定論の循環 88

88

### 四 科学技術複合体と問題の全体像 97

97

#### むすび

106

## 3章 科学技術複合体への期待と成果の落差の社会的意味

111

### はじめに

111

#### 一 新エネルギー技術開発の登場——OPECとOTEC

113

#### 二 日本のOTEC開発過程

124

#### 三 不確実性と意思決定——エネルギー問題と地球環境問題の光と影

133

#### 四 進むべきか、留まるべきか——OTEC再登場の文脈

144

#### むすび

152

## 4章 ためにする知をこえて——「知の失敗」の克服のために

157

### はじめに

157

#### 一 学際研究の通念につきまとう幻想

#### 二 閉じたエリート路線——あるSTS

162 159

三	閉じた大衆路線——もうひとつのS T S	179
四	専門家と非専門家の合作の条件	201
むすび		211
5章	自己言及・自己組織型の提言	.....
はじめに		219
一	テクノクラシーから距離をとる	223
二	テクノ・マスデモクラシーから距離をとる	246
三	足下からの制度再設計への提言	258
四	じわり型問題への提言——原子力とG M作物	232
むすび		219
註		275
あとがき		319
岩波人文書セレクションに寄せて		323
索引		付録